

2002 年

軽防協ニュース速報 NO. 2

2002年第2四半期（4月 - 6月）の伝染病発生状況についての報告

(International Collating Center からの情報)

2002年7月24日

オーストラリア

クイーンズランド州

クイーンズランド州では、広範囲に及ぶ乾燥気候にみまわれたため、ほとんどの繁殖地域において乾燥状態が続いた。

腺疫

クイーンズランド州政府機関の研究所において、2頭の発生が菌分離により診断された。その内訳は、50頭の群れで飼育されていた6ヶ月齢の仔馬と、5頭の群れで飼育されていた20歳の牝馬であった。

細菌 (E. coli) による流産あるいは原因不明の流産

4施設の繁殖牧場において、それぞれ1頭ずつの流産発生を認めた。流産発症馬と接触していた馬の総頭数は、およそ100頭であった。

カナダ

狂犬病

2001年度における家畜あるいは野生動物に認められた狂犬病の発生症例は、検査施設で確認された440例と臨床症状を呈した10例であった。これらのうち46%はスカンクでの発症であり、スカンクの中にはアライグマ種から伝染を受けたものもあった。馬では合計10頭の発症が報告されており、その内訳はマニトバ州において2頭、サスカチュワン州において3頭、オンタリオ州において5頭であった。

2002年度における馬での発生は、3月31日現在までは報告されていない。

馬伝染性貧血

2001 年度には、病性鑑定検査だけでなく、定期的な検査も含めて、75,302 頭に対して血清学的検査が実施された。2001 年度に陽性反応を示した症例は、2000 年度の 0.0456% から 0.0213% へと減少した。総頭数では 161 頭の馬に感染を認めた。主にサスカчевワン州、アルバータ州、およびブリティッシュ・コロンビア州での発症であった。

西部馬脳炎

2001 年度にはオンタリオ州で 2 頭の発症が報告されている。

腺疫

本年度の春期には、多くの地域において腺疫の発生が報告された。オンタリオ州のフォート・エリー競馬場において、サラブレッド種での発生が報告されたため、競馬場は 6 月 22 日までのおよそ 3 週間隔離された。

西ナイルウイルス

2001 年 8 月に、死亡した鳥からのウイルス検出によって、カナダで初めての西ナイルウイルス感染症の発生が確認された。2001 年度には、最終的に死亡した 128 羽の鳥からウイルスが検出された。ウイルスが検出された全ての鳥は、南オンタリオ州に生息していた。同地域の 9 プールの蚊からもウイルスが検出された。ウィンザー地域においては、越冬した蚊からウイルスが検出されている。

2002 年度にも、6 月 4 日に 2 羽の野鳥からウイルスの検出が確認されている。

現在までに、カナダでは馬での西ナイルウイルス感染症の発生は確認されていない。

カナダ食糧検査庁は、Fort Dodge Animal Health 社製馬用西ナイルウイルス不活化ワクチンの輸入と販売を条件付で承認した。

デンマーク

報告事項なし。

フランス

馬インフルエンザ

Moselle と Sarthe の 2 厩舎のサラブレッド種において、馬インフルエンザの発生を認めている。これらは Maine-et-Loire でのトロッター、Alpes-Maritimes、Manche、Yvelines、Vendee での乗用馬、および Loire-Atlantique でのその他の種など、非サラブ

レッド種での発生に引き続いて、確認されている。

馬ヘルペスウイルス（流産型）

診断は IF 法（蛍光抗体法）により行われた。IF 法によって陽性であった場合には、細胞培養法と PCR 法により確定診断が行われた。Maine-et-Loire のサラブレッド種において、馬ヘルペスウイルス（流産型）による流産の発生を認めている。

馬ヘルペスウイルス（呼吸器型）

馬ヘルペスウイルス（呼吸器型）は、Calvados、Maine-et-Loire、Moselle（2 厩舎）、Oise（2 厩舎）、Orme、Sarthe（3 厩舎）のサラブレッド種において発生を認めた。トロッターでは、Loire-Atlantique、Nord、Tarn-et-Garonne において発生を認めている。また、乗用馬でも Calvados、Eure-et-Loire、Loire-Atlantique、Manche（2 厩舎）、Oise、Orme、Seine、Yvelines において発生を認めている。Loire-Atlantique、Yvelines、Essonne では、その他の種でも発生の報告があった。

馬ヘルペスウイルス（神経型）

馬ヘルペスウイルス（神経型）は、Orme の種馬場においてサラブレッド種で発生を認めている。最初は、数頭の若馬が血清学的検査により陽性を示しただけであったが、その 10 週間後には、1 頭の牝馬（EHV-1 が脳脊髄液より検出された）と 6 歳の種牡馬に神経症状が認められた。EPM 検査については、現在実施している。

馬ピロプラズマ病

フランス南部では風土病である。

ドイツ

馬ヘルペスウイルス（流産型：EHV-1A）

2002 年 3 月 15 日に 1 頭の Resequin NN Plus ワクチン接種済みサラブレッド種牝馬での発生が報告されている。診断は、ギーセン大学において、IF 法（蛍光抗体法）とウイルス分離法によって行われた。

香港

報告事項なし。

アイルランド共和国

腺疫

3 施設で合計 9 頭の発生が報告されている。

馬ヘルペスウイルス（神経型）

サラブレッド牧場において、発生が報告されている。これらのうち、4 頭は安楽死処分され、他に流産や仔馬の眼疾患が認められた。診断は、アイルランド・エクワイン・センターにおいて、ウイルス（EHV-1）分離法によって行われ、確定診断は PCR 法により行われた。大多数の牝馬、仔馬、そして他の馬からウイルスが分離された。ワクチン接種歴については混乱していたが、ほとんどはワクチン未接種であった。

馬ヘルペスウイルス（流産型）

最初の発生は 2 月に報告されたが、ワクチン未接種であった 1 件のサラブレッド施設においてのみの発生であった。その後、3 ヶ月間で 5 件の流産と 2 頭の死亡胎仔の発生が報告された。診断は、アイルランド・エクワイン・センターにおいて、ウイルス（EHV-1）分離法によって行われ、確定診断は PCR 法により行われた。

もう 1 つの流産発生は、本年 3 月に 3 施設のワクチン未接種サラブレッド種牝馬群で散発的に認められた。診断は、アイルランド・エクワイン・センターにおいて、ウイルス（EHV-1）分離法によって行われ、確定診断は PCR 法により行われた。

ワクチン未接種サラブレッド種で EHV-4 による散発的な流産の発生が認められた。確定診断は、アイルランド・エクワイン・センターにおいて、ウイルス分離法および PCR 法により行われた。

馬ヘルペスウイルス 3 型（馬痘疹）

本年 3 月に 1 頭のサラブレッド種において、馬ヘルペスウイルス 3 型（交配後の発疹）の発生が認められた。診断は、アイルランド・エクワイン・センターにおいて、ウイルス分離法および IF 法（蛍光抗体法）により行われた。

馬ヘルペスウイルス（呼吸器型）

本年 3 月に 1 つの施設において、軽度の臨床症状を認める馬ヘルペスウイルス（呼吸器型）の発生が認められた。発生頭数は 20 頭以下であった。診断は、アイルランド・エクワイン・センターにおいて、ウイルス（EHV-1）分離法および PCR 法により行われた。サラブレッド種の 1 歳群は、2001 年後期に EHV-4 による感染を受けていた。

ロタウイルス感染症

2002 年 2 月 21 日以来、15 施設でサラブレッド種において、ロタウイルス感染症による下痢症の発生が報告されている。そのうちの 1 つの牧場では、16 頭の仔馬で陽性が確認された。他の牧場では、1 つあるいは 2 つのサンプルをラテックス凝集試験による確定診断を依頼するために、アイルランド・エクワイン・センターに送付しただけで

あった。

サルモネラ感染症

初診時のサンプルから *S. typhimurium* が分離・同定され、確定診断が行われた。

イタリア

報告事項なし。

日本

馬ヘルペスウイルス 1 型（流産型）

馬 1 型ヘルペスウイルス 1 型による流産が、3 施設 3 頭の繁殖牝馬に認められた。そのうち 1 頭はワクチン接種馬であった。診断は、日高家畜保健衛生所において、血清学的検査およびウイルス分離法により行われた。

馬伝染性子宮炎

5 月 13 日に 1 頭（サラブレッド種牝馬、14 歳）が PCR 法により摘発された。診断は、日高家畜保健衛生所において、細菌分離法および PCR 法により行われた。

ニュージーランド

報告事項なし。

ノルウェー

報告が未着であった。

シンガポール

報告が未着であった。

スペイン

報告事項なし。

スウェーデン

腺疫

大規模な発生が認められた。臨床症状は軽度であったが、広範囲に流行し、17 施設に影響が及んだ。乗用馬、繁殖用馬、サラブレッド種、そして非サラブレッド種にまで影響を及ぼした。診断は、血清学的検査によって行われた。発生は風土病的であったが、穏やかな流行であった。

スイス

馬ヘルペスウイルス

本年 3 月末に、EHV-1 型ウイルス感染症の発生が 3 件報告された。4 月には、異なった地域での発生が報告されたが、詳細は不明である。EHV-4 型ウイルス感染症の発生が 1 件報告された。

腺疫

国内中で 9 件の腺疫の発生が報告された。

馬ピロプラズマ病

本年 4 月と 6 月に、西部と中央部地区において、臨床症状を認めた 4 症例（3 症例は *B. caballi*、1 症例は *B. equi*）と血清学的検査による陽性例（4 症例は *B. caballi*、3 症例は *B. equi*、3 症例は *B. caballi/equi*）が確認された。

トルコ

報告事項なし。

アラブ首長国連邦

馬ピロプラズマ症

B. equi および *B. caballi* が散発的に認められた。

イギリス

馬ヘルペスウイルス流産型（EHV-1 型）

6 月初旬に、1 施設の 2~5 頭のサラブレッド種（ワクチン未接種）に限定した流産

の発生が認められた。その施設において、診断が行われた 2 頭に先立って、妊娠後期の流産の発生を認めたと、偶然の除草剤曝露が原因であると推測されたため、調査が実施されなかった。他の全ての牝馬は妊娠初期の状態であった。2002 年 6 月 11 日以降は、流産の発生は報告されていない。確定診断は、アニマルヘルストラストにおいて、組織学的検査法と PCR 法によって行われた。

馬ヘルペスウイルス流産型 (EHV-4 型)

2002 年 4 月 29 日に、ワクチン接種歴が不明であった 1 頭の繁殖牝馬が、EHV-4 型による流産であると診断された。確定診断は、アニマルヘルストラストにおいて、組織学的検査法と PCR 法によって行われた。

馬ヘルペスウイルス流産型

2002 年 4 月 16 日に、ワクチン接種歴が不明であったサラブレッド種 1 頭に流産の発生が認められた。確定診断は、アニマルヘルストラストにおいて、組織学的検査法と酵素免疫組織化学法によって行われた。

腺疫

サラブレッド種の発生は認められていないが、非サラブレッド種においては、腺疫が風土病として常在している。

馬インフルエンザ

6 月 17 日に、検疫場に輸送された約 40 頭のポニーのうちの 1 頭からの鼻咽頭粘膜スワブを用いた NP エライザ検査によって、馬インフルエンザと診断された。臨床症状は軽度であった。診断は、アニマルヘルストラストにおいて行われた。多くの馬が、以前にワクチン接種を受けているか感染による自然免疫を維持していたため、ワクチン接種歴については混乱していた。

アメリカ合衆国

馬インフルエンザ

6 月にコロラド州の獣医師によって、Maxwell H. Gluck Center に送付された激しい呼吸器疾患の症状を認めた馬からの採材を検査した結果、馬インフルエンザ 2 型 (H3N8) ウイルスが分離された。

馬ヘルペスウイルス流産型 (EHV-1 型)

2001 年 10 月から 2002 年 6 月の間に、ケンタッキー中央部において、EHV-1 型ウイ

ルスによる流産を 25 頭に認めた。14 施設ではそれぞれ 1 頭のみが発症であったが、2 頭の発症を認めたのが 1 施設、そして 3 頭の発症を認めたのが 3 施設であった。

馬ヘルペスウイルス神経型 (EHV-1 型)

バージニア州の牧場において、3 頭の馬と 1 頭のポニーが、典型的な臨床症状と血液サンプルからのウイルス分離によって、EHV-1 型による馬ヘルペスウイルス神経型であると Maxwell H. Gluck Center において診断された。アイオワ州エイズ市の National Veterinary Services Laboratory において、安楽死処分された馬の脳からウイルスが分離され、さらに PCR 検査がミシガン州立大学において行われ、脊髄組織から EHV-1 の DNA が検出された。3 頭の馬は安楽死処分となり、ポニーは治療により回復した。

繁殖牝馬流産症候群 (MRLS)

4 月最終週から 5 月初旬にかけて、ケンタッキー州中部の牧場において、妊娠初期あるいは妊娠後期の流産を引き起こす繁殖牝馬流産症候群 (MRLS) の発生が報告された。流産の発生が 500 頭以上であった 2001 年度の同時期と比較すると、本年度に家畜疾病診断センター (LDDC) によって診断された発生頭数は、164 頭とかなり減少している。流産胎児の吸収には時間を要するので、明確な妊娠初期の流産発生頭数を把握するには、さらに時間が必要となる。しかしながら、6 月初旬に 92 件の牧場を対象に実施された調査では、4 月に妊娠鑑定を実施した 92.3% の繁殖牝馬に引き続き受胎が確認された。最新情報はホームページ上 (www.ca.uky.edu) で入手可能である。

西ナイルウイルス感染症

2002 年度の馬における発生状況は、6 月末の時点で、フロリダ州で 7 頭、そしてルイジアナ州で 4 頭の発生が報告されている。死亡した鳥およびプールされた蚊からのウイルス検出報告に基づく、西ナイルウイルスの発生地域は、カナダのオンタリオ州をはじめ、アメリカ合衆国のコネチカット州、フロリダ州、ジョージア州、インディアナ州、イリノイ州、ケンタッキー州、ルイジアナ州、メリーランド州、マサチューセッツ州、ミシガン州、ニュージャージー州、ニューヨーク州、ノースカロライナ州、オハイオ州、ペンシルベニア州、テネシー州、テキサス州、バージニア州、そしてコロンビア特別区にまで拡大している。

インターナショナル・コレイティング・センター